

ロジスティクス環境会議
第7回リバースロジスティクス調査委員会

2004年12月3日(金)14:00~17:30
日本通運株式会社 本社 15階「第5会議室」

次 第

1. 開 会

2. 第4回勉強会
「食品業界における廃棄物・リサイクル事情」
ジャパン・リサイクル(株) 網野氏
ミヤマ(株) 永井氏

3. 第7回委員会(全体会)・分科会
 - 1) 本日の進め方について(全体会)
 - 2) 報告書の作成要領について(全体会)
 - 3) 分科会
 - 4) 全体サマリーと次回予定(全体会)
 - 5) その他

4. 閉 会

【配布資料】

- 資料1-1:ドキュメントルール
- 資料1-2:報告書作成フォーマット
- 資料2-1:活動状況 家電・OA分科会
- 資料2-2:活動状況 自動車分科会
- 資料2-3:活動状況 食品分科会
- 資料2-4:活動状況 物流分科会
- 参考資料1:スケジュール
- 参考資料2:分科会(調査)活動の進め方(例)
- 参考資料3:関連語句の標記ルール(暫定版)
- 参考資料4:第6回委員会 議事録

以 上

報告書作成のドキュメントルール（案）

030401

このルールは、J I L S 総研で作成・使用するドキュメントの標準ルールを説明したものである。内容により、必須項目（かならず準拠する）と任意項目（できるだけ準拠する）があるが、基本的に、ドキュメントは、これに準拠し、デジタル情報として作成する。

必須項目（かならず準拠する）は、

判型：A 4 判

1 行の文字数：40 字

フォント：MS 明朝（ゴシックは、MS ゴシック B 体）

文字フォントのサイズ(ポイント数)：11ポイント

余白(マージン)：上下左右とも25mm。ヘッダ・フッタは上下いずれも15mm。

図表タイトル：図も表もすべて「図表」で統一する。

などである。

使用ソフトは、ワード、エクセル、パワーポイント、などMS系に統一する。

2004 . 11 . 30

社団法人 日本ロジスティクスシステム協会

1. 判 型 A 4 判 (用紙はタテ向き、文字はヨコ書き、を原則とする)
2. 文字数 各ページとも 1行40字 とする。
3. 行数 各ページとも 40行 とする。(やむをえないとき、増加は可)
4. フォント 基本的にはMS明朝体。11や16の場合はMSゴシック体(太字：B)。
5. ポイント フォントサイズは、11.0 ポイント とする。
6. 余 白 マージンは、上下左右いずれも 25mm とする。
ヘッダーまたはフッターをつけるときは、いずれも、用紙の端からの距離を 15mm とする。
7. ノンブル 下中央にアラビア数字で表示。ページマージンは下から15mmとする。
8. 数 字 タテ書きなど特別の場合をのぞき、アラビア数字を使用する。
1ケタ 全角。2ケタ以上 半角。3ケタごとにコンマを入れる。
ただし、次の場合、コンマは不要。
西暦年号 例：2003年
パレット寸法 例：1100×1100mm
9. 年 号 原則として西暦表記にし、元号はさける。やむをえないときは、西暦表記の後にカッコ書きで元号を併記する。
例：2003年(平成15年)
10. 単 位 原則として記号を使用し、文字表記はさける。
例：mm、cm、km、mg、kg、cc、m²、%、‰、\$、¢、£、
ただし、トン、トンキロ、などは、t、tk でなく、カタカナ表記とする。
また、円は、¥でなく、漢字表記を原則とする。

11. 番号 番号のつけかたは、次の要領による。

1 .	(数字・ピリオド・文字すべて全角。ゴシック体)
<後1行アケ>	
1)	(1角アケ。半カッコ・数字とも全角。明朝体)
(1)	(2角アケ。両カッコ・数字とも半角。明朝体。半角いれて文字開始)
	(3角アケ。マル数字は1角。明朝体)

章を立てるときは、次の要領による。

	第1章 総論	(センタリング。すべて全角。ゴシック体)
<後1行アケ>		
1 . 調査の経過		(数字・ピリオド・文字すべて全角。ゴシック体)
<後1行アケ>		
<前1行アケ>		
1.1 委員会の開催		(数字・ピリオドとも半角。明朝体。半角いれて文字開始)
<後1行アケ>		
1) 本委員会		(1角アケ。半カッコ・数字とも全角。明朝体)
(1)		(2角アケ。両カッコ・数字とも半角。明朝体。半角いれて文字開始)
		(3角アケ。マル数字は1角。明朝体)

12. 改頁 章を立てるときは、各章のはじまりを改頁する。

13. 改行 一般的なルールによる。

14. 行間 行間をアケル場合は、11を参照。

15. 句読点 句点は「、」読点は「。」を使う。「、」や「。」は句読点には用いない。

16. 図表 図も表もすべて図表として統一し、図表の番号と名称を、図表の上中央にゴシック体で記入。番号の後に1角アケル。

例：図表1 輸入物流に要するコストとリードタイム

章を立てるときは、章単位で区別して表記する。

第1章 図表1-1、図表1-2、図表1-3、…

第2章 図表2-1、図表2-2、図表2-3、…

第3章 図表3-1、図表3-2、図表3-3、…

17. 文献 書籍、雑誌など、文献の表記は、原則として、次のようにする。

著者・編者名『文献名』（発行年月、出版社または発行所）

例：運輸省編『平成9年度運輸白書』（1998年1月、大蔵省印刷局）

18. 記事 雑誌などから引用した記事の表記は、原則として、次のようにする。

執筆者名「記事名」（『雑誌名』号数 出版社・発行所名）

例：鈴木幸一「インターネットの課題」（『通産ジャーナル』1995年6月号掲載、通商産業調査会発行）

19. 表記 次の表記に注意する。

例：受取る(動詞形)	受け取る
受け取り(名詞形)	受取
エリヤ	エリア
コンテナー	コンテナ
コンベア	コンベヤ
...(数量)...(を)越える	超える
仕訳(け)	仕分
車輜	車両
充分	十分
調査票	調査表
ヒヤリング	ヒアリング
頁 または p	ページ

20. 文章表現

- ・ 常態（～である調）とする。
- ・ 現代仮名づかいとする。
- ・ 常用漢字を使用する。ただし、固有名詞はこの制限からはずす。
- ・ できるだけ、ひらがな表記とする。

例：あ行	余り		あまり
	併せて		あわせて
	言う		いう
	言った		いった
	一層		いっそう
	伺う、窺う		うかがう
	於ける		おける
	各々	(おのおの)
			それぞれ
	及び		および
か行	且つ		かつ
	箇所		カ所（全角カタカナ）
	下さい		ください
	事		こと
	殊に		ことに
	毎		ごと
さ行	更に		さらに
	従って		したがって、
	既に		すでに
	全て、総て		すべて
	夫々、其々		それぞれ
た行	但し		ただし、
	出来る		できる
	(～の)通り		(～の)とおり
	(～の)時		(～の)とき
	特に		とくに

	伴う	ともなう
	(～と)共に	(～と)ともに
な行	無い	ない
	等	など
	睨んだ	にらんだ
	延べ	のべ
は行	初めて・始めて	はじめて
	他・外	ほか
ま行	先ず	まず
	又は	または
	(～)迄	(～)まで
	見(られ)る	み(られ)る
	目指す	めざす
	勿論	もちろん
	申し上げる	申しあげる
や行	易い(く)	やすい(く)
わ行	分かる	わかる

報告書作成フォーマット（例示）

環境調和型ロジスティクスについて（章タイトル）

1．環境調和型ロジスティクスについて（みだし1）

環境調和型ロジスティクスとは・・・（みだし1 本文）

1.1 環境調和型ロジスティクスについて（みだし2）

環境調和型ロジスティクスとは・・・（みだし2 本文）

1) 環境調和型ロジスティクスについて（みだし3）

環境調和型ロジスティクスとは・・・（みだし3 本文）

(1) 環境調和型ロジスティクスについて（みだし4）

環境調和型ロジスティクスとは・・・（みだし4 本文）

環境調和型ロジスティクスについて（みだし5）

環境調和型ロジスティクスとは・・・（みだし5 本文）

(a) 環境調和型ロジスティクスについて（みだし6）

環境調和型ロジスティクスとは・・・（みだし6 本文）

(b) 環境調和型ロジスティクスについて（みだし6）

環境調和型ロジスティクスとは・・・（みだし6 本文）

環境調和型ロジスティクスについて（みだし5）

環境調和型ロジスティクスとは・・・（みだし5 本文）

(2) 環境調和型ロジスティクスについて（みだし4）

環境調和型ロジスティクスとは・・・（みだし4 本文）

2) 環境調和型ロジスティクスについて（みだし3）

環境調和型ロジスティクスとは・・・（みだし3 本文）

(1) 環境調和型ロジスティクスについて（みだし4）

環境調和型ロジスティクスとは・・・（みだし4 本文）

(2) 環境調和型ロジスティクスについて（みだし4）

環境調和型ロジスティクスとは・・・（みだし4 本文）

図表 環境調和型ロジスティクスとは（図表）

リバースロジスティクス調査委員会
分科会の活動状況

分科会名	家電・OA機器分科会
------	------------

1. 調査テーマ（品目等）

「複写機」「パソコン」については、ヒアリング調査を完了。複写機リバースロジスティクス実態調査ではリコーロジスティクス様、パソコンリバースロジスティクスでは日本電気様にご協力いただいた。また、廃家電4品目については、(株)東芝の実態調査を資料レベルで行うとともに、北九州に設置された西日本家電リサイクルセンターでの状況も把握した。

調査結果を基にして、リバースロジスティクスの抱える課題と対策について、メンバーを二つのチームに分け報告書作成を行い、ドラフトまでできた。12月16日に検討会開催。

2. 調査テーマ等の検討経緯、課題など

複写機、パソコンのリバースロジの実態調査と廃家電4品目のリバースロジ調査を基にして、報告書の原案作成を行っている。メンバーの役割分担は以下の通り。

1. 頭書き：横山
2. 複写機のリバースロジスティクス調査結果：石渡、古橋
3. パソコンのリバースロジスティクス調査結果：海老塚、小林
4. 家電・OA機器リバースロジスティクスのあるべき姿と課題：坂弥、黒坂
5. 対策提言：横山、佐柄木、有江
6. アドバイスならびに意見：鈴木、矢野、浮田

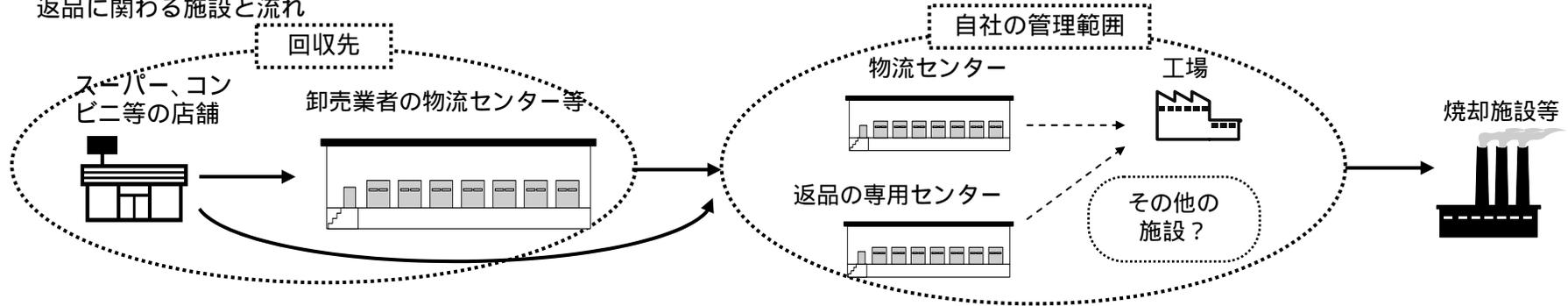
分担メンバー間での打ち合わせや電子メールによる意見交換などを通して、ドラフトはかなり出来上がってきた。反省点として、課題と対策を別に分けたことがある。課題が見えないまま対策を書くという分け方にはやはり無理があったが、メンバーの努力と精力的な活動で、報告書の形はできてきたと認識している。なお、課題と対策は章を分けるのではなく、一つの章で整理することとした。本日の分科会打ち合わせで整理した案で検討を行う。予定された期限内で完成させるべく作業を進めている。対策については、企業として、業界として、行政としての3つに分けて書いているところである。

ヒアリング調査内容（加工食品：〇〇株式会社殿）

商品の返品に関し、次の内容についてお伺いします（対象範囲：首都圏～関東圏）。その他、参考になるデータ類がございましたら、ご提供いただければ幸いです。

1. 返品される商品そのものの動きや数量に関してお伺いします。

返品に関わる施設と流れ



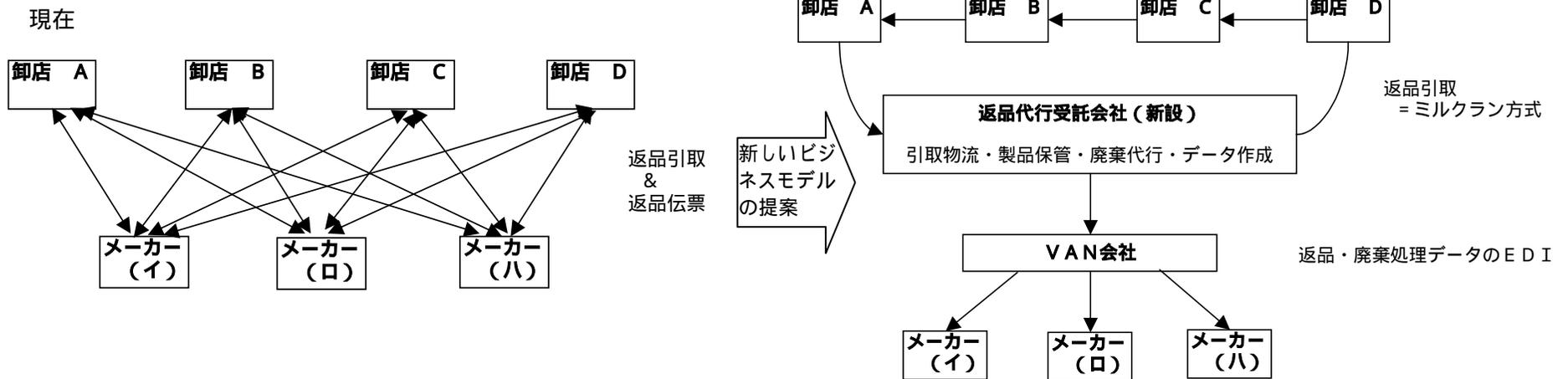
	回収先の状況	回収(輸送)状況	保管状況	処理状況
施設に関して	・回収先の箇所数と立地場所(卸店の施設、店舗、その他...)	・回収車両の状況(配送帰り便、専用車、宅配便、その他...) (回収ルート別に異なる場合は詳細をお答え下さい)	・保管施設の箇所数と立地場所(物流センター、専用センター、工場、その他...)	・処理施設の処理方法と立地場所 (分別により品目ごとに施設が異なる場合は品目ごとにお答え下さい)
数値データ等	卸店からの返品 % 店舗買上げ % その他 % (重量・個数・函数・商品金額ベース)	配送帰り便 %、専用車 % 宅配便 %、その他 % (重量・個数・函数・商品金額ベース) ・回収先との距離、輸送ロット (回収ルート別に異なる場合は詳細をお答え下さい、平均的な距離とロットでもかまいません)	物流センター % 専用センター % 工場 %、その他 % (重量・個数・函数・商品金額ベース)	・処分場への輸送距離、処理ロット(ルートごとに)

2. 返品に必要な業務や情報（社内の返品ルール）に関してお伺いします。

	返品発生(事務)	返品受け付け(作業)	回収(輸送)	保管	処理
業務内容に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・返品許可・返品回収指示・決済方法(専門知識が必要か) ・専用伝票(赤伝、その他専用書類…) ・受付拠点(物流拠点、営業セクション…) 	<ul style="list-style-type: none"> ・検収方法(誰が行うのか、専門知識が必要かなど…) ・具体的な作業(伝票は持っているのか、伝票と現物の差異を確認するのか、確認単位は函かバラかなど…) 	<ul style="list-style-type: none"> ・輸送手配(誰が行うか) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保管条件(制約条件の有無:賞味期限、一定期間によって廃棄までの基準があるのかどうかなど…) ・検品の有無(棚卸など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・処理業者の選定基準(信用、コストなど…)
数値データに関して	<ul style="list-style-type: none"> ・返品理由 売れ残り(期限切れ) % 定番カット %、その他 % ・受付拠点数と返品件数(処理件数・伝票枚数ベース) 物流拠点 箇所 件 or 枚/月 or 年 営業所など 箇所 件 or 枚/月 or 年 ・返品事務作業工数 1件あたり人・時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・返品受付作業工数 1件あたり人・時間 ・1回収あたり返品件数(処理件数・伝票枚数ベース) 件 or 枚/1輸送 	<ul style="list-style-type: none"> ・輸送頻度とロット 回/月 or 年 個 or 函 or トン/回 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均的な保管量(重量・個数・函数・商品金額ベース) ・平均的な保管スペース 坪 or m² ・平均的な保管期間 ヶ月 	<ul style="list-style-type: none"> ・処理量(施設ごとに) (品目ごとに異なる場合は詳細にお答え下さい) ・処理頻度
把握しているコストに関して	<ul style="list-style-type: none"> ・返品金額(対売上比率) %(返品額/売上額) ・返品数量(処理量で換算?) 個 or 函 or トン 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・配送コスト 円/月 or 年 	<ul style="list-style-type: none"> ・保管コスト 円/月 or 年 	<ul style="list-style-type: none"> ・処理コスト(輸送費込み)(施設ごとに) (品目ごとに異なる場合は詳細にお答え下さい) 円/トン

3. 下記のイメージの返品処理代行会社を検討しています。このようなビジネスモデルについてお伺いいたします。

リバースロジスティクスの提案ビジネスモデル（食品メーカーの共同取組により返品引取物流を一本化する）



貴社が委託可能な業務内容について（返品受付、輸送、保管・・・）

返品の商品配送について（製品輸送との兼ね合い・・・）

ビジネスモデルへの期待と不安について

期待（コスト削減、事務処理簡略化、顧客の負荷低減・・・）

不安（情報管理・・・）

実態把握結果の概要

		返品発生(事務)	返品受け付け(作業)	回収(輸送)	保管	処理
A社	業務内容・施設等に関して	<ul style="list-style-type: none"> 返品許可申請・返品回収指示(引き取り依頼表作成)は営業担当者が実施する 検収して数量確認後、店ごとの赤伝に数量等を記入して決済 データ入力は本社で実施 	<ul style="list-style-type: none"> DCに返品専門担当者を置き、荷受け作業を実施 箱数の確認のみで中身の商品まで確認はしない ドライバーは大幅に数量が異なるときだけ回収時に確認を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 営業からの依頼を受け、帰り荷として引き上げ 配送車による回収(一部自社便の手配による回収実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 動脈のDCと同じセンターを間借り 車両単位にまとまった時点で業者へ集荷依頼 棚卸は行わず、保管のみ実施 	<ul style="list-style-type: none"> 焼却処理実施
	数値データに関して	<ul style="list-style-type: none"> 受付拠点数 回収物流拠点 関東5箇所 回収元営業所等 首都圏2000店 ヒアリング対象DC 500店舗 返品事務作業量 2h/人・日 	<ul style="list-style-type: none"> 返品受付作業量(DCに専任1名) 2~3h/人・日 返品件数(出荷ケース数 12000ケース/日・DC) 約20件/1日・DC 	<ul style="list-style-type: none"> 4~5台/1日の車両に返品あり(出荷台数40台/日) 	<ul style="list-style-type: none"> 平均的な保管スペース 20~30坪 平均的な保管期間 2~3週間(月末に処理することが多い) 	<ul style="list-style-type: none"> 処理ロット 10トン車 頻度 月1~2回
	把握しているコストに関して	<ul style="list-style-type: none"> 返品金額(対売上比率) 1.0~1.5%(返品額/売上額) 	基本的には動脈物流の費用に吸収されており、把握できていない。ただし、作業費は工程ごとに個建て単価設定されており、把握は可能。			
B社	業務内容・施設等に関して	<ul style="list-style-type: none"> 営業担当:申請 物流担当:許可 営業担当:フィードバック 営業担当:申請書作成 	<ul style="list-style-type: none"> 返品専用センターを設けて荷受け・検品を実施 個単位での検品を行い、詳細な数量チェックを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 1年前から取引先費用負担による送り付け実施(引き取り回収は行わない) 	<ul style="list-style-type: none"> すべて返品専用のセンターで保管 処理施設との受け渡し数量管理を正確に実施 	<ul style="list-style-type: none"> 本社で一括契約管理して焼却処理(首都圏2業者、地方は1業者が多い) 近い処分場よりも能力、信頼性で選定
	数値データに関して	<ul style="list-style-type: none"> 受付拠点数 回収物流拠点 全国8箇所(6箇所になる予定) 首都圏1箇所 	<ul style="list-style-type: none"> 返品受付作業量 4~5件/人・時 20日到着締め 検品 営業にフィードバック 数量入力 月末処理 	-	<ul style="list-style-type: none"> 平均的な保管期間 2~3週間(月末に処理) 月末に処理施設に受け渡し 	<ul style="list-style-type: none"> 処理ロット 4トンアームロール車 頻度 首都圏:週1回 地方:月1~2回
	把握しているコストに関して	<ul style="list-style-type: none"> 返品金額(対売上比率) 一般家庭用小売 0.65% ギフト 2.85% 		(切り替え前は、約4000万円/年の回収運賃が発生 現在取引先が負担している運賃は約2000万円/年	<ul style="list-style-type: none"> 保管費用(固定費) 坪数×坪単価で算出: 約200円/ケース 管理費用(変動費、検品費用込み)ケース数で算出: 約200円/ケース 	<ul style="list-style-type: none"> 収集運搬費 約50円/ケース 処分費 約100円/ケース

ビジネスモデルへの意見

○委託可能な業務内容について

- ・現状では委託するのは難しい
- ・情報管理の面を含めて、委託できるのではないか（逆に、現在の返品業務を担当している物流会社で受けることも可能）

○返品の商品配送について

- ・返品業務は、動脈物流とセットであり、別々の物流は考え難い
- ・一方、配送によっては、返品のためだけに別途車両を仕向けることがある。

○ビジネスモデルへの期待と不安について

- ・コスト高になるのではないかと 事業化していくことは難しいのではないかと
- ・メーカーは静脈にかかるコストを正確に把握する必要があると考えられるため、別会社で管理することは良い方向ではないかと
- ・メーカーは不法投棄されたくない 保管管理・処理は徹底して欲しい しっかりとした教育が必要 そのためには担当物流業者等は専門化する必要がある 本提案のビジネスモデルが必要になる可能性はある

リバースロジスティクス調査委員会
分科会の活動状況

分科会名	物流分科会
------	-------

調査テーマ（品目等）

- (1) 木パレットのリユース・リサイクル
- (2) 宅配用包装の通い箱化

1. 木パレット関連

(1) 調査経緯

材木の全消費量の中の木パレット消費量の位置付け調査
森林伐採（木材活用）と二酸化炭素蓄積の関係と環境影響の調査
木屑リサイクルの現場実地調査
効果的な木パレットのリユースとリサイクルの検討

(2) 課題

建築廃材との同時リサイクル処理のモデル構築
木パレットの「産業廃棄物」認定（法対応）が必要

2. 宅配用包装関連

(1) 調査経緯

宅配使用のダンボール個数の調査（全体環境負荷軽減効果の大きさの予測）
リユースを可能とする（汚れない）貨物の絞り込み
B2B/B2C/C2C のビジネスモデルの検討

(2) 課題

リユース箱（プラスチック）の設計（箱の大きさ・荷札添付・洗浄・緩衝材等）
デポジット制の導入方法（特に C を含むビジネスモデルの場合は不可欠）
物流ルート of 構築（コンビニ活用・回収企業等）
イニシャルコスト負担元

以 上

今後のスケジュール

1. 分科会（グループ）活動・・・開催頻度 1 回 / 月（集合方式、又は e ミーティング方式）
 - ・業種（製品）別に複数グループ編成を行い、リバースロジスティクスの視点から、将来のあるべき循環型ビジネスモデルと、その実現課題の抽出と解決策について検討を行う。
 - ・委員会（全体会）では、各分科会グループより、以下の各項目について発表していただく。
 - ・発表項目については、委員会期日までに各分科会にてまとめ、事前に事務局までメール添付にてお送りいただく。

- 1) 第 7 回委員会 / 12 月 3 日（金）
 ビジネスモデル概要の記述（含前提条件）
- 2) 第 8 回委員会 / 05 年 1 月 25 日（水）
 - ・提言
 法規制への改善要望、リサイクル製品（商品）への社会支援の要望等
- 3) 第 9 回委員会 / 05 年 2 月 23 日（水）
 - ・提言
 法規制への改善要望、リサイクル製品（商品）への社会支援の要望等

2. 見学会活動・・・3 回程度 / 年 希望者を募って実施
 第 3 回（予定） 日 時：05 年 2 月
 見学先：要検討
 見学に関わる費用（交通費等）は各自ご負担となります。

【2004 年度委員会、分科会開催予定表】

	2004年										2005年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1. リバースロジスティクス 調査委員会	第3回 4/27(火)		第4回 6/3(木)	第5回 7/22(木)		第6回 9/22(水)			第7回 12/3(金)	第8回 1/25(水)	第9回 2/23(水)		
2. 勉強会			第1回	第2回		第3回			第4回	第5回	第6回		
3. 分科会（グループ）													
1) 家電・OA機器G			第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回		
2) 自動車G			第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回		
3) 食品G			第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回		
4) 物流G			第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回		
4. 見学会			第1回(関東近郊)				第2回(北九州)				第3回(関東近郊)		
			7/5(月)				11/5(金)～6(土)				2/上旬		

第 3 回本会議 05 年 3 月 16 日（水） 14 - 16 時

以 上



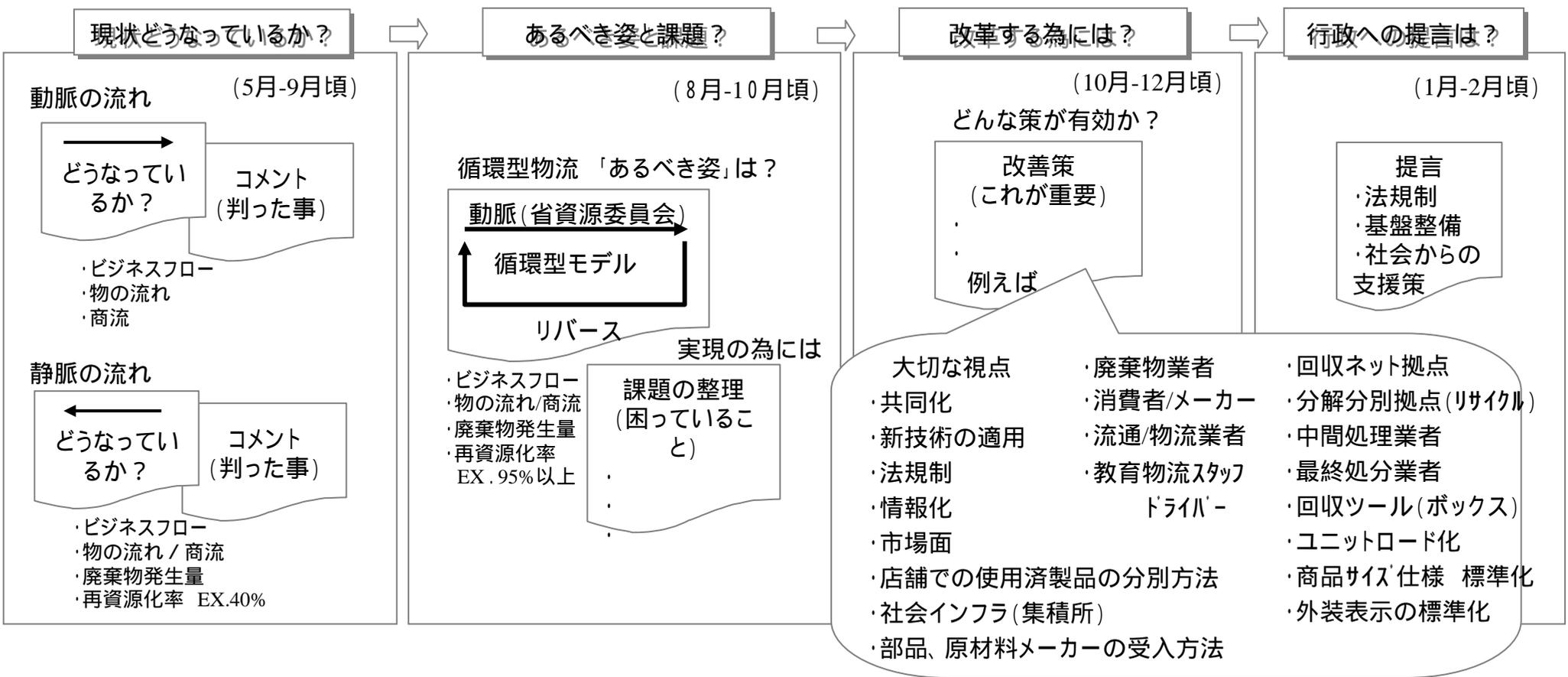
04年4月27日

分科会(調査)活動の進め方(例)

対象品目 分科会メンバーで選定

例 家電 ・既存4品目(リバース開始済) …視点 スタートしたがまだ非効率であり、改善余地有り テーマ選定しても良い
 ・未実施品目(これから始まる) …視点 4品目と同じようにスタートする為には、何が前提となるか？どんな注意が必要か？
 VTR,オーディオ、電子レンジ等 どのような条件・環境を整備すれば良いか？

進め方



報告書作成にあたって関連語句の表記ルール（暫定版）

1	二酸化炭素	単位	CO ₂	「CO」は半角大文字 「2」は半角下付き
		本文中	CO ₂	上記同様
2	二酸化炭素排出量	単位	tCO ₂ kgCO ₂	「t」は半角小文字 「kg」は半角小文字 「CO」は半角大文字 「2」は半角下付き ハイフンはいれる？
		本文中	tCO ₂ kgCO ₂	上記同様
3	燃料使用量 (リットル)	単位	ℓ	「l(アルファベットの小文字のL)」 では、数字の「1」と似ているため、 リットルと記述する際には、「ℓ」 を使用する。
		本文中	リットル	全角
4	燃料使用量 (都市ガス)	単位	Nm ³	「N」は半角大文字 「m」は半角小文字 「3」は半角上付き
		本文中	Nm ³	上記同様 「？立方メートル」と することも考 えられるが、「Nm ³ 」の方がわかりや すため、こちらを採用する。
5	電気使用量	単位	kWh	「k」は半角小文字 「W」は半角大文字 「h」は半角小文字
		本文中	kWh	上記同様 「キロワット時」とすることも考 えられるが、「kWh」の方がわかりやす ため、こちらを採用する。
6	物流量(重量)	単位	t kg	「t」は半角小文字 「kg」は半角小文字
		本文中	トン キログラム	全角
7	物流量(トンキロ)	単位	トンキロ	半角？ 「t・km」とすることも考 えられるが、「トンキロ」という言葉が定着して いるため、こちらを採用する。
		本文中	トンキロ	全角
8	距離	単位	km	「km」は半角小文字
		本文中	キロメートル	全角
9	金額	単位	円	全角
		本文中	円	上記同様
10	割合	単位	%	全角
		本文中	%	全角
11	発熱量	単位	MJ	「MJ」は半角大文字
		本文中	MJ	上記同様 「メガジュール」とすることも考 えられるが、「MJ」の方がわかりやす ため、こちらを採用する。

ロジスティクス環境会議

第 6 回リバースロジスティクス調査委員会 議事録

・日 時：2004年9月22日(木) 14:00～17:30

・場 所：東京・港区 東海大学交友会館 富士の間

・出席者：30名

・内 容：

- 1) 第3回勉強会
- 2) 第6回委員会(全体会)
- 3) 分科会
- 4) その他

・開 会

定刻、菅田委員長により、開会が宣された。

・第3回勉強会

以下のとおり、第2回勉強会が開催された。

- 1) いすゞ自動車㈱ 鈴木氏
「自動車リサイクル法について」

次回発表者：食品分科会メンバーより発表予定

12月3日(金) 14:00～15:00

・第6回委員会

- 1) 各分科会の活動経過について【資料1】

各分科会より、資料に基づき、調査テーマに関する検討内容について報告がなされた。

- (1) 家電・OA機器分科会 詳細は「資料1-1」参照
調査テーマ：静脈物流の現状とあるべき姿に関する考察
対象品目：複写機、情報処理機(メインフレームを対象にしたコンピュータ関連機器)
活動内容：複写機、パソコンについてのヒアリング調査
- (2) 自動車分科会 詳細は「資料1-2」参照
調査テーマ：自動車シュレッダーダスト(ASR)の再資源化
対象品目：自動車シュレッダーダスト(ASR)
活動内容：EU動向、リサイクル技術と施設の調査
- (3) 食品分科会 詳細は「資料1-3」参照
調査テーマ：食品メーカーによる返品引取物流の共同化
対象品目：加工食品(卸とメーカー間)
活動内容：ビジネスモデルの起案、簡便的シミュレーションによる検討
- (4) 物流分科会 詳細は「資料1-4」参照
調査テーマ：物流課程から排出される廃棄物・リサイクルの実態と提言
対象品目：各企業で課題となっている廃棄物から選定
活動内容：宅配事業における環境対応、パレット等のリサイクル化の検討

2) 第3回分科会と今後のスケジュール

各分科会にて取組みテーマや今後の進め方について検討がなされた。

(1) 家電・OA機器

- ・複写機、パソコン夫々で実態調査を実施。次回分科会までにあるべき姿を検討する。
次回分科会日程の詳細は、幹事役よりメンバーに連絡。

(2) 自動車

- ・家電など他リサイクル法摘要対象製品(業界)の比較調査を実施する。
次回分科会日程は10/29(金)、11/16(火)を予定。詳細は、幹事役よりメンバーに連絡。

(3) 食品

- ・現状のビジネスモデルを調査した後、共同化の実現可能性を調査、検討。
次回分科会日程の詳細は、幹事役よりメンバーに連絡。

(4) 物流

- ・宅配、パレットの2グループに分かれて検討を実施。
次回分科会日程の詳細は、幹事役よりメンバーに連絡。

3) 今後のスケジュールについて

(1) 第7回リバースロジスティクス調査委員会

日時：12月3日(金) 14:00~17:30
会場：未定(決まり次第ご連絡いたします)

(2) 第2回見学会

日時：11月5日(金) 13時~6日(土) 午前中
見学先：北九州エコタウン
詳細は添付ファイル参照

4) その他

(1) 調査報告書の完成イメージについて

別添配布資料「リバースロジスティクス調査報告書の目次(事務局原案)」について、事務局説明が行われ、今後具体的な検討を行うことが確認された。

10/13(水)16:30~18:30、正副委員長ならびに各分科会幹事との打合せにて検討

(2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令の一部改正について

麦田副委員長(日本通運)より、上記内容に関するパブリックコメントの内容とその後の状況について説明がなされた。

詳細は以下URLをご覧ください。

<http://www.env.go.jp/press/press.php3?serial=5275>

閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、菅田委員長は閉会を宣した。

以 上